

翻字翻訳『同文類解・語録解』(上)

竹越 孝

<凡例>

- ・ 本稿は、朝鮮司訳院の清学書『同文類解』(1748)に付録として収められた『語録解』を対象として、その満洲文字とハングルをローマ字に翻字するとともに、満洲語の例文に日本語の逐語訳を付した資料である。底本にはソウル大学校奎章閣所蔵の「奎 1822」に基づく弘文閣(1995)を使用した。
- ・ 『語録解』は全 14 葉、中国語を主に、朝鮮語を補助的に用いた満洲語の文法概説で、全 67 項目に及ぶ虚字(機能語)の解説からなる。松岡(2006)は成百仁(1988)の引く朴恩用(1970)の説を受けて、本書の主たる底本が沈啓亮『清書指南』(1682)の卷三「翻清虚字講約」であることを指摘しているが、筆者の見るところでは、編者は同書とともに舞格『滿漢字清文啓蒙』(1730)の卷二「清文助語虚字」をも参照している可能性が高い。「翻清虚字講約」、「清文助語虚字」等については拙稿(2007)を参照されたい。
- ・ 本稿では各項目に通し番号を振り、満洲文字は Möllendorff 式、ハングルは河野式によって翻字する。なお、主に「～字意」の形で用いられるハングルの部分には下線を施して区別する。
- ・ 主として「如云～」の形で挙げられている満洲語の例文は、中国語と対置した上で日本語の逐語訳を記す。地の文の中で引かれる満洲語の単語・表現等は()内に日本語の意味を記す。

<参考文献>

弘文閣(1995)『同文類解』(洪允杓解題) 서울:弘文閣.

成百仁(1988)「『同文類解』와 『漢清文鑑』」『韓國學의 課題와 展望』710-726. 城南:韓國精神文化研究院.

竹越孝編訳(2007)『清代満洲語文法書三種』愛知:古代文字資料館(『KOTONOHA』単刊1).

朴恩用(1970)「同文類解語録解의 出典에 對하여」曉星女大『國文學研究』3:39-73.

松岡雄太(2006)「蒙学三書の編纂過程—“語套”の観点から見た“蒙文鑑”—」『日本モンゴル学会紀要』36:35-47.

語録解

[1] be

把字。将字。即 yr 字意。又以字。用字。即 bse 字意。又令字。教字。即 y-ro 字意。又也字。如云。

将他領了去

terebe genefi gene.

それを 持って 行け

以何為根本

ai be fulehe da obumbi.

何を 根 本 とする

師傅說了教你去

sefu simbe gene sehe.

先生 お前に 行け と言った

如接虚語用。已然。未然者。俱可接 be 字。其 i. ni. de. me. ci. fi 等虚字之下。不可用 be 字。若係整語。如 bayan wesihun (富貴) 之類。直用 be 字。又有連寫者。必用 m 字帶下如 gisumbe (話を) . cembe (彼らを) . mimbe (我々を) 之類。亦有整語。如勤曰 kicebe (勤勉な) . 好了曰 yebe (良い) 之類。是也。凡遇 dahame (なので) . ai hendure (何を言う) 之上。必用 be 字。凡書法。不可以 be 字。提寫一行之首。至於 de. ci. se. i. ni. kai 等字亦然。此等字。用於連字之頭者。名曰整字。或有用於中。有用於尾。及單用者。方為虚字解。清話字尾。無聯虚字者。是令人之詞也。

(1a2-1b5)

[2] de

時候字。即 jei 字意。又地方字。往字。即 ei 字意。又給字。於字。即 gei 字意。又作而字意。乃傳下申明語。單用聯用俱可。其已然未然之詞。照上文分別用。如云。

大人們方纔去的時候告訴了

ambasa teike genere de alaha.

大臣達 ちょうど 行く時 に 言った

你往那裡去

si aibide genembi.

お前 どこへ 行く

給與這箇人了

ere niyalma de buhe.

この 人 に 与えた

如整語亦可直接。又有用 o 字之類。接下者。不可執一也。用於句中。有着意之意。do 字。te 字。亦同。如議曰 hebe (相談) . 商議曰 hebedembi (相談する) . 寬曰 onco (広い) . 寬之曰 oncodombi (広める) . 拍馬曰 dabsimbi (鞭打つ) . 拍馬向前曰 dabsitembi (鞭打って行く) . 凡遇 gelembi (恐れる) . olhombi (怖がる) . aisilambi (助ける) . šangnambi (褒める) . amuran (好きな) 等字之上。必用 de 字。乃一定之詞。

(1b6-2a7)

[3] i. ni

的字。之字。即 yi 字意。又以字。用字。即 bse 字意。又呢字。哉字。又作驚訝想像意。如云。

人之父母己之父母

niyalma i ama eniye

他人 の 父 母

beye i ama eniye i adali.

自分 の 父 母 の ようだ

以德修身

erdemu i beye be dasambi.

徳 で 身体 を 修める

以何答報

aini karulambi.

何で 報いる

這是什麼緣故呢

ere ai turgun ni.

これ 何 原因 か

凡遇 emgi (ともに) . baru (向かって) . canggi (だけ) . cala (あちらに) . teile (ばかり) . jalin (ために) . adali (ような) . gese (ような) . ebsihe (限り) . gubci (すべて) 等字之上。必用 i 字。或當用 ni 字。如 ere gese (このような) . tere gese (そのような) 等句。乃係成語。不在此例。又 kan. kon. ken (やや～な) . cin (正面) . cun cun (だんだん) . giyan giyan (一つ一つ) . giyan fiyan (順序通り) . siran siran (次々) . dahin dahin (繰り返し) . dahūn dahūn (繰り返し) . ulhiyen ulhiyen (次第次第) 等字之下。必用 i 字。乃一定之詞。又 dule (もともと) 之下。ainahai (どのように) 之下。必用 ni 字。或 nikai 煞脚。

(2a8-2b10)

[4] ra. re. ro

用於字末。皆承上接下。未然之語。即 nAn 字意。上用 a 下用 ra. 上用 e 下用 re. 上用 o 下用 ro. 以叶韻為主。如於字中用者。乃用工用力之詞。即 gisurere (話す) 之類。又與 la. le 字相同。如 lashalahabi (決断したのだ) . hūsutuleme (力を尽くして) 是也。又作煞尾用者。語氣輕活。

如我必去曰

bi urunakū genembi.

私 必ず 行く

如我去曰

bi genere.

私 行く

凡遇 jakade (～なので) . anggala (のみならず) . onggolo (以前) . dabala (～だけ) . ayoo (～ではないか) . unde (まだ～しない) 等字之上。必用 ra. re. ro 等字。ume (決して～するな) 之下。必用 ra. re. ro 等字應之。如 age ume (兄さんするな) . jai uttu ume (二度とこうするな) 等句。乃係急口成語。不在此例。是一定之詞也。

(3a1-10)

[5] la. le. lo

用於句中。皆有用力之意。

如自壞曰

efujehe.

壊れた

壊之曰

efulehe.

壊した

如用於句末。作大凡字解凡所聞曰 donjihala (聞いたことすべて) . 凡所到曰 isinahala (いたるところすべて) 。

(3b1-3)

[6] ka. ha. ke. he. ko. ho

矣字。了字。也字。在字尾聯用。皆已然之詞。亦視上文叶韻用之。如上 a 下 ha. 上 e 下 he. 上 o 下 ho. 其 ka. ke. ko. 又隨語氣以別。

如令人去曰

gene.

行け

去了曰

genehe.

行った

令人完曰

waji.

終われ

完矣曰

wajiha.

終わった

句中亦有的字解。如 genehe niyalma (行った人) . foloho bithe (刻した本) 之類。如下了曰 fasika (下ろした) . 出了曰 tucika (出た) . 迎了曰 okdoko (迎えた) 之類也。至於 habi. hebi. ohobi. 此用 bi 字煞脚者。乃一事之已完也。用 manggi (～すると) 字煞脚者。乃一事之未完。文理斷耳。其 kabi. kebi. 又隨語氣以變耳。

(3b4-4a3)

[7] me

着字。即 hA-ie 字意。又 hA-mie 字意。在字尾聯用。乃承上接下。将然未然之語。如云。

不能舉

tukiyeme muterakū.

持ち上げ られない

説着看

gisureme tuwa.

話して 見ろ

句中或有連用幾 me 字。亦不妨。但不可煞尾用。乃係整語。如 senggime (友愛) . enteheme (永遠に) . 不在此例。凡遇 mutembi (できる) 字之上。必用 me 字。又漢文而字。則用 bime (あって) . 意思相連而下也。如曰富而貴 bayan bime wesihun (富んでいて貴い) 。

(4a4-10)

[8] fi

的了字。即 hA-go 字意。又 hA-ie-sie 字意。在字尾聯用。乃結上接下。將然已然之詞。如云。

說了看

gisurefi tuwa.

話して 見ろ

語氣相似。則連用數 fi 字。義並同。或有煞尾用者。如 uttu ofi (そうなって) 之類。又作因字意。即 mo-ro 字意。如因其如此所以如此。則上用 fi 字。以起下文。

(4b1-6)

[待続]